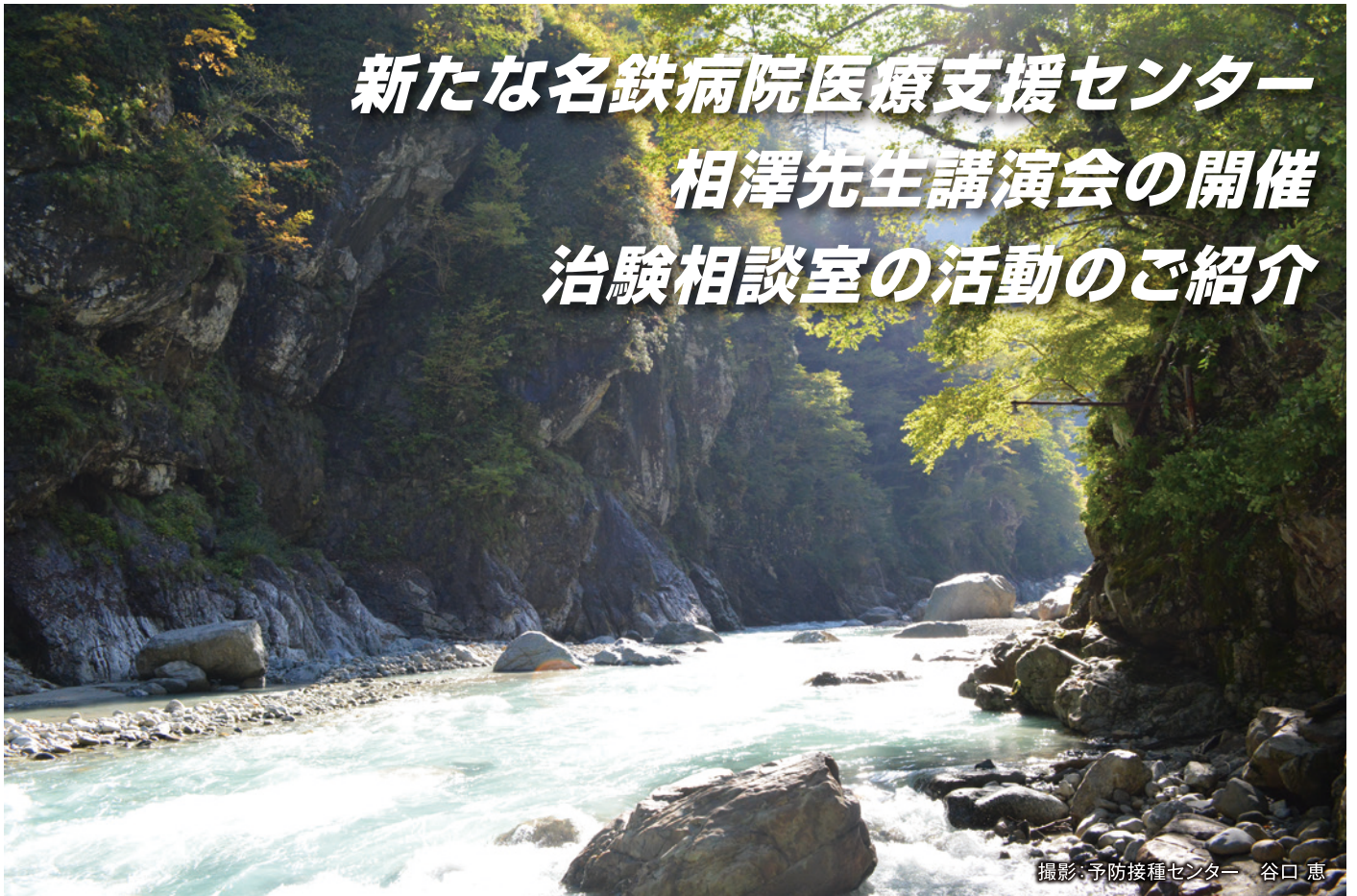




新たな名鉄病院医療支援センター 相澤先生講演会の開催 治験相談室の活動のご紹介



撮影:予防接種センター 谷口 恵

政治的な背景など、何かと話題の多かった平昌冬季オリンピックも無事に終わり、日本は過去最多の13のメダルを取得し私たちを楽しませてくれました。カーリングなど私たちを感動させてくれた種目も数多くありましたが、個人的には、小平奈緒選手が出場した500mのスピードスケートは、小平さんが所属する相澤病院・CEOの相澤孝夫先生が日本病院会会長という激務の中、競技の2日前に当院の講演会に講師としていらしてくれた縁もあり、最後までハラハラしながらテレビに釘付けになっていました。

ところで、今年は診療報酬、介護報酬に加えて、医療計画、医療費適正化計画、介護保険事業計画、介護給付適正化計画など重要政策の見直しが行われるため、惑星直列の年と言われています。超高齢化社会が迫る中、名鉄病院も、この地域の特性や変化を見極めながら、医師会の先生方、近隣の病院と連携し、未来を見据えた病院作りを目指しますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



名鉄病院
病院長

細井延行



新たな名鉄病院医療支援センター

医療支援センター長 竹田 欽一

平成29年12月からの平成30年の2月にかけて、インフルエンザが流行し、さらに数年に一回の大寒波も襲来したことで体調を崩されたかたが数多くいらっしゃいました。皆さんはいかがでしたでしょうか?救急患者さんが多く、名鉄病院も幾度か満床状態になってしまう日々があり、当院への救急搬送の依頼や近隣診療所の先生方からの入院要請に関してご迷惑をおかけしましたことをこの場をおかりして心からお詫び申し上げます。

さて平成30年度は厚生労働省による医療介護の同時改定があり、急に体調を崩された方々を治療する急性期病床に関して、病床削減など含めて厳しい方向になってきました。皆さんもご存じのとおり、2025年には団塊の世代が後期高齢者になって超高齢化社会へ突入し国民の4人に1人が75歳以上になります。なかでも愛知県は日本でも有数の高齢者人口が増加する県と言われています。現状では病院、病床の規制のなか、ますます患者さんの受け入れ先がなく、病院をたらい回しにされるが増えることが容易に推測されます。

われわれ名鉄病院医療支援センターは、いままでの病院と病院、あるいは病院と診療所をつなぐ病診連携室の機能部門と、患者さんが地域や家庭で自立した生活をおくれるように社会福祉の立場から患者・家族を援助し社会復帰の促進を図る医療ソーシャルワーカー(MSW)を中心とした退院支援・調整部門に追加し、病床管理部門を増設しました。限られた急性期病床を有効に利用し、一人でも多くの患者さんを受け入れ、治療できるように病床を管理していきます。このためには、患者さんおよびご家族、入所施設などの御協力なくては成り立ちません。入院と同時に医師、看護師、MSW、理学療法士などによる多職種で患者さんの病気の治療のみならず、退院後の生活が円滑にできるように退院を想定して調整を行っていきます。ぜひ患者さん、ご家族も早期の社会復帰、退院を目指して一緒に頑張っていただけたら幸いです。また退院が決まりましたら早期退院に御協力いただきますよう重ねてお願いいたします。

また名鉄病院は院内に各分野の専門知識を有した専門・認定看護師が複数在籍しています。今後は今まで以上に名鉄病院近隣の患者さん、診療所の先生がたの医療、介護に貢献できるように、医療支援センターが窓口となって病院外での活動を積極的に行っていきます。ぜひ診療所の先生方および医療、介護に関わる皆様からのリクエストをいただきながら、一緒に地域の医療に貢献できるように努めてまいりたいと思います。

相澤先生による講演会を開催しました。

2月16日、日本病院会の相澤孝夫会長(女子スピードスケートの小平選手が所属する相澤病院のCEO)をお招きし、「2025年に向けた医療提供の在り方」と題してご講演いただきました。相澤会長からは、高齢化に伴う疾病構造の変化を踏まえた今後の医療提供のあり方について、国の動向や自院での取組みを交えながらお話いただき、約130名のスタッフが熱心に耳を傾けました。



治験相談室の活動のご紹介

治験相談室

当院では継続的に治験(臨床試験)を行っています。

■現在実施中の治験

実施診療科	対象疾患
内分泌・代謝内科	2型糖尿病、糖尿病性腎症
婦人科	子宮内膜症、子宮筋腫
神経内科	アルツハイマー型認知症、 不規則睡眠覚醒を伴うアルツハイマー型認知症



その他、直近では予防接種センターにて、乳児・小児対象のワクチン、消化器内科ではNSAID潰瘍や潰瘍性大腸炎等の疾患の治験経験があります。

治験とは？

厚生労働省より新薬の承認を得るために、患者様にご協力をいただいて行う臨床試験のことです。
名鉄病院のホームページでも下記のアドレスにてご紹介をしています。

<http://www.meitetsu-hospital.jp/jyushin/chiken.html>

治験相談室の活動

治験相談室には治験コーディネーターが在籍し、治験薬を使用される患者様の対応やスケジュール管理、院内各部署への連絡や調整等を行っています。また、製薬会社からの新規治験の受付窓口、病院長が行う治験審査委員会への審議依頼補助(事務作業)等も実施しています。

治験コーディネーターの考える今後のトピック

2015年に2型糖尿病を合併する慢性腎臓病(CKD)の患者様を対象として、協和発酵キリン株式会社が導入したバルドキシロンメチルの第2相試験(比較的少数の患者様を対象とし、主に治験薬の安全性および有効性・用法・用量を調べるための試験)が実施されました。

主要評価項目はGFR(糸球体濾過率)、及びeGFRで、当院でも本試験に参加し、患者様には入院をしていただき、イヌリンクリアランス法を用いてGFRを測定しました。

バルドキシロンメチルは、体内にある抗酸化因子及び解毒因子の産生を調節する転写因子であるNrf2を活性化させる薬物で、組織を炎症から保護することができます。

慢性的な炎症は、慢性腎不全などの合併症を促進することが知られており、バルドキシロンメチルはニューロタン(ARB)とは異なる新しい機序の2型糖尿病を合併する慢性腎臓病の治療薬として期待されています。

第3相試験についても2018年夏頃から全国的に始まる予定で、当院の内分泌・代謝内科でも実施を予定しております。皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

参考：http://www.kyowa-kirin.co.jp/news_releases/2017/index.html





「車いす」30台の寄贈を受けました。

1月12日、福祉用具レンタル業を営むサンネットワーク中部株式会社 代表取締役 板津直好様から親族が当院に勤務しているという縁もあり、「車いす」30台を寄贈していただきました。ご厚意に深い感謝の意をお伝えするため、後日、金子事務部長が訪問し感謝状を贈呈いたしました。寄贈された「車いす」は院内で大切に使用させていただきます。

中学校の職場見学を受入れました。

1月23日、知多市立知多中学校の2年生の方5名が、職場見学として、当院の小児科病棟を訪問されました。見学を通して、医療職の内容を知り、仕事に対する理解を深めるとともに、自分の将来について考える機会とするのが目的でした。当院の概要説明の後、皆さん積極的に看護師に対して様々な質問をされました。



名鉄病院

〒451-8511 名古屋市西区栄生 2-26-11
 URL <http://www.meitetsu-hospital.jp/>
 TEL052-551-6121 (代表)

診療科目

- 内科 ●循環器内科 ●消化器内科 ●神経内科 ●血液内科
- 内分泌・代謝内科 ●呼吸器内科 ●小児科 ●外科 ●整形外科
- 消化器外科 ●リハビリテーション科 ●脳神経外科 ●婦人科
- 皮膚科 ●泌尿器科 ●女性泌尿器科 ●耳鼻咽喉科 ●眼科
- 放射線科 ●腎臓内科 ●病理診断科 ●麻酔科

診療センター

- 予防接種センター ●健診センター ●ウロギネセンター
- 認知症疾患医療センター ●関節鏡・スポーツ整形外科センター
- 糖尿病センター ●内視鏡センター

専門外来 ※予約制 (一部を除く)

- リウマチ膠原病内科 ●音声外来 ●禁煙外来 ●乳腺外来
- インスリン導入外来 ●スポーツ内科 (他院からの紹介の方のみ)
- シルバークリニック ●小児慢性疾患外来 ●乳児健診 ●肝臓外来
- ストーマ外来 ●フットケア外来 ●ペースメーカー外来
- 糖尿病眼合併症外来 ●ASO外来 ●糖尿病透析予防外来
- リウマチ外来 ●関節鏡外来 ●スポーツ外来
- 小児整形外科外来<月1回/不定期> ●脊椎外来 ほか



1号館前の名鉄病院(地上)駐車場の平日7時~17時の利用で、来院・お見舞いの方は割引サービスが可能です。1号館1階Aブロックか2階総合受付に、駐車券を事前に提示して割引認証を受けてください。

病診連携・紹介状に関するお問い合わせは

地域医療連携室 TEL. 052-586-5755 FAX. 052-586-5756

本紙内容に関するお問い合わせは

事務部事務1課 TEL. 052-551-6299 FAX. 052-551-6711